平成２４年度豊かなむらづくり顕彰事業　実施概要

本顕彰事業は、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収めている団体等を表彰するとともに、その活動内容を広く紹介することにより、農業・農村の発展に寄与することを目的に、関係機関の御支援をいただきながら昭和 56 年より実施しており、本年度で３１回目を迎えました。

これまで「むらづくり部門」で 154 団体、「農業生産部門」で 74 団体の合わせて 228 団体が、農山村における地域づくりの模範的な団体として受賞されています。

内　　容	時　　期
事業募集	平成２４年８月１７日（金）
予備審査会	平成２４年１０月２４日（水）１３：３０～１５：００ ところ：杉妻会館３階　百合Ａ
現地調査	平成２４年１０月３１日（水）～１１月２１日（水） うち５日間
本審査会	平成２５年１月２４日（木）１３：３０～１５：００ ところ：県庁本庁舎３階　総務委員会室
表彰式	平成２５年３月２６日（火）１０：３０～１１：４０ ところ：杉妻会館４階　牡丹

平成２４年度豊かなむらづくり顕彰事業　審査講評

本年度は、２市３町から「むらづくり部門」に２団体、「農業生産部門」に３団体の合わせて５団体の御推薦をいただきました。

本年度の推薦団体は、集落をあげたグリーン・ツーリズム、地域資源を活かして女性や高齢者がいきいきと取り組んでいる直売活動、基盤整備を契機にしっかりとした話し合いから生まれた集落営農、新たな地域特産物づくりなど地域産業の６次化の取組み、消費者との笑顔あふれる交流や次世代を担う子どもたちへの食農教育活動など、地域の特長を生かし、創意工夫を重ねながら、先進的、かつ、個性的なむらづくりや農業生産活動が展開されています。

さらには、東日本大震災後の大変厳しい状況の中において、放射性物質の吸収抑制対策や風評の払拭対策にもしっかりと取り組まれ、震災前よりさらに一歩進んだむらづくり活動を実践されています。

審査会では、これらの推薦団体から今後も一層の発展が期待され、他地域の模範であると高く評価できるものとして、平成 24 年度豊かなむらづくり顕彰事業の優秀団体として５団体を決定いたしました。

なお、喜多方市の「揚津グリーン・ツーリズム推進協議会」は、喜多方市やNPO 法人と連携しながら、「棚田エコ米と美味し蕎麦の里」をブランド名とした棚田オーナー制度を柱としたむらづくりに、地区民が一丸となって取り組んでおります。その結果、都市住民を対象とした農業体験イベント等を通じて、継続性のある交流を行うことで、経済的な波及効果や二地域居住にも繋がり、地域振興と豊かな農山村のコミュニティ形成に大いに寄与していることから、平成 25 年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に本県代表として推薦することといたしました。

各受賞団体の皆様には、今後とも地域活性化のための活動に積極的に取り組まれ、本県農業と農村の振興に一層御貢献いただきますよう期待いたします。

（審査長　福島県農林水産部長　畠利行）

平成２４年度豊かなむらづくり顕彰事業受賞団体の概要

【　むらづくり部門　】

◆揚津グリーン・ツーリズム推進協議会（喜多方市）

キャッチフレーズ：**「棚田エコ米と美味し蕎麦の里　揚津のむらづくり」**

稲刈りを終えて記念撮影
24 年度のオーナーと揚津地区の皆さん

揚津地区では、疲弊していく地域を何とかしなくてはとの住民の思いから全４１世帯による揚津グリーン・ツーリズム推進協議会を設立し、「棚田エコ米と美味し蕎麦の里揚津」を地域ブランド名として、棚田オーナー制度と、清らかな水が育むエコ米と寒暖差を活かした揚津そばの栽培等に、地区民一体となって取組んでいます。棚田オーナーからは揚津そばを始めとする揚津の「食」が好評で、地区の農産物の生産意欲向上とそばの生産拡大による遊休農地の解消につながっています。農家民宿を開業させる農家が現れるなど、交流人口の拡大、環境にやさしい農業推進、滞在型グリーン・ツーリズムの推進等に取組み、豊かな地域資源を活用した全員参加のむらづくりは、地域の活性化に大きく貢献しています。

◆木伏地区営農改善組合（南会津町）

キャッチフレーズ：**「“よって～けやれ～(お寄りください）”、**

おもてなしの心あふれるむらづくり」

集落の山開きには毎年２００名以上が
参加する

木伏集落では、高齢化や後継者不足が問題となる中、平成 20 年に設立した木伏地区営農改善組合が中心となり、県営ほ場整備事業で区画整備した水田を担い手２名へ集積し、持続可能な農業生産環境を整えました。また同組合が平成 21 年にオープンした直売所「よって～けやれ～」では、農地の集積により生じた余剰労働力を活用して遊休農地等においてそばや野菜を栽培し販売する他、冬期間には高齢者や女性が作った蔓細工や手工芸品も販売するなど、やりがいや生きがいにつなげています。

加えて集落活性化には観光客の力が不可欠であることから、山開きなどのイベントを通じて周辺集落と連携することにより、地域全体の活性化にも大きく貢献しています。

【　農業生産部門　】

◆小坂アグリ株式会社（国見町）

キャッチフレーズ：**「農に生きる　～集落営農の実践～」**

20ha 以上の水稲作を行う地域の担い手

小坂地区では、ほ場整備事業を契機として、平成 19 年に農業生産法人「小坂アグリ株式会社」を設立し、集落営農の少ない県北地区において、土地利用型農業の先駆け法人として農地集積を進め、高齢化が進む中、遊休農地発生の防止にも大きく寄与し、平成 24 年 3 月末の農地集積は区域内の 43%を占める約 35ha となっています。ほ場を面的に集積している利点を活かし、大豆と水稲のブロックローテーションを行っており、国見町内の大豆生産振興にも大いに貢献しています。また、県のオリジナル品種「天のつぶ」の生産にもいち早く取り組むなど、米のブランド化と町が特産品として進める極早生米「まんざいらく」や特産大豆「こうじいらず」の生産に取組むなど、地域の活性化に大きく貢献しています。

◆棚倉町ブルーベリー愛クラブ（棚倉町）

キャッチフレーズ：**「今、棚倉から　ブルーベリーステージへ」**

棚倉町ブルーベリー愛クラブの皆さん

棚倉町では、こんにゃくの栽培面積が激減し耕作放棄地が増加する中、水稲作業との競合が少ないブルーベリー栽培に注目した農家 22 戸が集まり、平成 16 年に「棚倉町ブルーベリー愛クラブ」を結成しました。当クラブが商品化した「ジャム」や「果汁飲料」「濃縮ドリンク」等の製品は、ブルーベリー果実とともに棚倉町の新たな特産品となっています。加工品は会員それぞれの販売努力により固定客も確保され、地元中心に贈答や冠婚葬祭引出物等の需要が定着しており、震災後も実績を伸ばしています。また、学校給食への食材提供や、地元小学校と連携してジャム加工体験なども行い、町内における地域産業の 6 次化や食育の模範的な事例として地域農業の振興に大きく貢献しています。

◆JA あいづファーマーズマーケット「旬菜の会」（会津若松市等）

キャッチフレーズ：**「安全！安心！会津産農産物！で会津を元気にする～旬菜の会～」**

旬菜館における秋彼岸フェアでの販売状況

JA あいづ管内の高齢者や女性が少量多品目の農産物を生産・販売するため、平成 16 年に農産物直売所向けの生産・出荷を担う組織として旬菜の会を設立しました。農産物直売所は、これまで販路のなかった農家の販売場所として、所得向上と地産地消の推進に大きく寄与しています。会員による販売額が 3 億 3 千万円と、JA あいづの販売額の中で大きな割合を占めるまでに成長しています。各会員、基幹作物 3 品目＋補完作物 3 品目＋新規チャレンジ作物 3 品目の『9 品目生産』を目標に、多品目生産を推進するとともに、会津伝統野菜や雪下野菜などにも取り組むことにより、安定した周年出荷と消費者を飽きさせない販売につなげております。また、学校給食への食材提供を始めとして地産地消活動や直売所における消費者との交流を大切にしており、様々なイベントを開催する中で食農教育にも積極的に取り組み、地域の活性化に大きく貢献しています。